

## CLUB WEEKLY No.0044

## よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ

## 水と衛生月間

例会日:2026年3月2日(令和8年3月2日)



会長 平松悦子

## 今日の例会

2026年3月2日

- 今日の歌 君が代・我等の生業 12:30~
- 出席報告 青戸会員
- ニコニコ発表 青戸会員
- 卓話 安田会員
- 第9回理事会

## 次回の例会

2026年3月16日

- 懇談 17:00~17:30 18:30~
- クラブ協議会 17:30~18:20
- 今日の歌 奉仕の理想
- 出席報告 濱部会員
- ニコニコ発表 濱部会員

## 会長の時間

【平松 悦子】

本日は、愛知より愛知友愛ロータリークラブの会長エレクト 小田様にお越しただいております。遠方よりお越しただき、誠にありがとうございます。

さて、先週13日に会長幹事会が開催されました。その中で、「会長幹事会は年間4回、すなわち3か月に1回の開催となっているが、多すぎるのではないか、あるいは少なすぎるのではないか」といった様々なご意見が出されました。審議の結果、次年度につきましても、これまでどおり3か月に1回、年4回の開催とすることに決定いたしました。

また、4月10日にはロータリーデーが予定されております。さらに、6月には最終のIM会長幹事会がございますが、本年は台湾にて国際大会が開催され、当初開催日が6月15日の国際大会の前になっていましたので、日程が6月5日の変更になりました。6月は台湾の国際大会のありますのを、皆様もまたちょっと心に留めといてくださいませ。

本日は、私からの報告事項はあまりございませんが、幹事よりご報告があるかと思います。

昨日は大変暖かい一日でしたが、本日は風も冷たく、寒暖差のある日が続いております。どうぞ皆様ご自愛ください。

なお、溝畑先生が無事にパキスタンよりご帰国されました。少し体調を崩されたとのことですが、大事に至らず何よりでございます。海外へ行かれるたびに心配しておりますが、こうして元気にお顔を拝見でき、安心いたしました。

それでは、今月もどうぞよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

それから、この前の会長幹事会のとき、入り口で「難波ロータリー」の方が立っていらして、うちのロータリーから卓話の依頼を受けたって話をされてました。それで5月18日に難波ロータリーから10名ほど来られるそうです。各テーブルに分かれて座って、増強とかいろいろ状況などを話したいとのこと。「どんな形が一番いいですか?」と聞かれたんですが、お任せしました。とりあえずこちらとしては、皆さんに共有しておこうと思っております。5月18日は会員増強委員10名ほど来られる予定です。できるだけお休みのないように、皆さんへ連絡をお願いします、とのことでした。取り急ぎお知らせまで。

大阪上方ロータリークラブ

創立:2024年7月22日 例会:第1・3週目は対面・第4週目はオンライン

会長:平松 悦子  
幹事:久保 太公矢  
会報資料担当:青戸 佳世

【例会場】〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 6-1-55 シェラトン都ホテル大阪  
TEL:06-6773-1111 FAX:06-6773-3322  
【事務局】〒579-8058 東大阪神田町 3-12 医療法人翔聖会 気付  
TEL:080-2026-1803 Mail:osaka.kamigata.r.c@kind.ocn.ne.jp

【久保 太公矢】

- ①3月7日にシティプラザ大阪で開催されます会長エレクト・ラーニングセミナーには間嶋会長エレクトにご参加いただきます。よろしくお願いいたします。
- ②回覧を回しております。  
4月11日（土）の開催されます I M第4組ローターデーの出欠をご回答ください。又、それより前に「ローター歴5年未満の方が対象」のフレッシュロータリアン研修交流会も開催されます。当クラブの会員はほとんどの方が対象となりますのでご参加の程よろしくお願いいたします。本日、ご案内を配布しております。
- ③次回3月16日は17：00より懇談会、17：30よりクラブ協議会が5階「カトリア」にて開催されます。理事役員、委員長にはご出席を宜しくお願いいたします。

地区委属状 授与】



ロータリー財団委員会出向 和田悠希子会員

ポリオワクチン投与活動報告

【溝畑 正信会員】

2月7日から11日まで、パキスタンのカラチへ行ってまいりました。ポリオワクチンの投与活動と、グローバル補助金が承認された現地の視察に行っていました。まずポリオワクチンの活動ですが、パキスタン各地からカラチに高速道路で1日1,000台バスがやってくるので、バス停で軍がバスを止め車内に入り、0歳から5歳までの子どもを見つけてその場でワクチンを投与しています。市内に感染症を持ち込ませないための取り組みです。ポリオワーカーは4交代制で、24時間体制で活動していました。また、カラチ駅からハイデラバードまで約3時間列車で移動し、その列車内でも接種を行いました。1日に10便、多い日には20便もの列車が発着し、本当に民族大移動のような光景でした。その車内に乗り込み、子どもたちにワクチンを投与しました。

さらに、個別訪問での接種もあります。イスラム圏のため男性は家の中に入れないので、女性ワーカーが家の中に入り、子どもを連れてきて接種します。スラム地域も訪問しましたが、1つのテントに複数の家族が暮らしている状況もあり、一夫多妻が認められているので、男性は一人で母親が2～3人に子供が各2～3人で、子どもの多さに驚きました。

- 愛知友愛RC 小田 純也様 本日は愛知県から参加させていただきました。すごい立派なところで例会をされていて、素晴らしいですね。本日はどうぞ宜しくお願いいたします。
- 平松 悦子様 本日もよろしくお願いいたします。
- 溝畑 正信様 パキスタンより無事帰国しました。
- 溝畑 洋子様 パキスタンから無事に主人が帰ってきて嬉しいです。
- 久保 太公矢様 いつもありがとうございます。
- 間嶋 伸治様 今日でも宜しくお願いします。
- 遠藤 孝二様 いつもありがとうございます。
- 中島 勇人様 昨日はポカポカ陽気でしたが、今日は寒の戻りですね。
- 竹谷 美和様 2月も後半乗り切りましょう！
- 安田 剛様 よろしくお願いいたします。
- 青戸 佳世様 本日もよろしくお願いいたします。
- 和田悠希子様 地区ラーニングセミナーに行ってきました♪
- 道木 良明様 道木 憲子様 もうすぐ春ですネ。いいことが一杯ありますように！

皆様、ありがとうございました。合計13名 23,000円



次に、グローバル補助金の事業についてです。今回は学校のトイレ改修と下水設備の整備が承認されました。まだ工事は始まっていませんが、現地の学校を視察しました。トイレはかなり傷んでおり、早急な改善が必要だと感じました。また個人的な支援として、前田さん、黒川さん、松本さんと私の4人で5,000ドルを出し合い、浄水器を1基設置しました。その設置式にも参加してきました。今回の活動報告はガバナー月信に投稿し、写真を14枚送りましたが、多すぎるとのことで編集委員会にお任せし、最終的に8枚に絞られる予定です。3月号に掲載されますので、またご覧いただければと思います。以上、ご報告でした。ありがとうございました。

追加のご報告になりますが、2月号の『ロータリーの友』に、ワクチン活動に従事している女性ワーカーの記事が掲載されていました。列車でのワクチン活動中に、スカーフが列車に引っかかってしまい、両足を切断する事故に遭った方です。今回、現地訪問の際にその女性を訪問してまいりました。チャーターナイトの時に来ていただいた、四国の坂出東のパストガバナーである前田さんも同行され、整形外科医として診察を行い、日本に来て義足を作り、リハビリを行いながら職場復帰ができるよう支援する道筋も確認することができました。2月号の記事をご覧いただくと、「あ、この方に会いに行きたんだな」と分かる内容になっていますので、ぜひご覧ください。

## 委員会報告

先週の金曜日、2月13日に、社会奉仕委員会と職業奉仕委員会の合同で、子ども食堂「Jcampus」に訪問してきました。こちらは教会の牧師さんが中心となって運営されている子ども食堂で、単に食事や学習の場を提供するだけでなく、子ども一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせる居場所を作ることを理念に活動されています。

現在は自習室も開放されており、不登校の子どもや、学校には通えているけれど勉強に不安を抱えている子どもたちが自主的に学びに来ています。その中には、高校3年生の男性もあり、以前は支援を受けていた立場だったのですが、今は下の子どもたちに勉強を教えることで、自分自身の居場所を作りながら成長しています。支えられていた子が支える側に回る、この循環がとても素敵だと感じました。また、学習に一生懸命取り組んだ子どもには、「よく頑張ったね」と声をかけ、おやつを提供する仕組みもあります。単なるご褒美ではなく、努力を認められる体験になっているのが印象的でした。

食事支援は週2回行われており、平均1回あたり約30食を提供。食べに来る子どもだけでなく、家庭の事情で来られない兄弟や親御さんにも、テイクアウトで優先的に届けるなど、きめ細かい支援がなされています。調理はボランティアの方々が担当し、地域全体で支えている活動です。活動を主導している牧師さんは、「子どもたちが安心できる場所をつくること、規模は小さくても一人ひとりに寄り添う活動をしていきたい」と繰り返しおっしゃっていました。

ロータリーとしての今後の支援については、日用品や文房具の提供よりも、子どもたちにとって特別な体験になるような支援が喜ばれるとのことでした。たとえば、クリスマスにちょっとしたパーティーや特別なお菓子を提供すると、子どもたちはとても喜ぶそうです。こうした継続的な関わりを通して、地域の子どもの未来を微力ながら支えていけたらと思います。なお、3月20日には教会でマルシェも開催されるそうです。チラシをテーブルに置いていただいていますので、よろしければぜひご覧ください。

訪問後韓国料理屋さんで、子ども食堂の活動に至った時の思いとか、今後どのように支援していくべきか意見交換もできました。「何かをしてあげる」だけではなく、子どもたちが本当に喜ぶ支援とは何かを考えながら、今後も取り組んでいきたいと思っています。以上、報告でした。ありがとうございました。

## 【職業奉仕委員長【小林 友美子】



先週2月7日、ラーニングセミナーに参加してきましたので、その報告をさせていただきます。セミナーではまず、2026-27年度のRI会長であるオライル・カティブ氏のスピーチ映像が流れました。オライル会長は「インカ会長」と呼ぶようにとのことでした。会長のメッセージは「持続可能なインパクトを生み出そう」です。

「インパクト」とは普段は“受けるもの”というイメージがありますが、会長は「生み出す」と表現されていました。辞書で調べると「強い影響や印象」という意味で、心理的・社会的に与える強烈な評価や効果を指すとのことでした。会長のメッセージの中で紹介された事例を2つご紹介いたします。

1つ目は、アメリカ・ノースカロライナ州のロータリークラブ会員、ティアさんの事例です。ティアさんの夫は19か月の闘病の末に亡くなり、介護とコロナ禍でほとんど友人に会えない日々が続いていました。そんな時、ロータリークラブの仲間から「来週の夕食会に来てください。あなたに会いたいです」と誘いを受け、ティアさんは不安と緊張の中参加しました。席に着く間もなく、会員が彼女を抱きしめ、「会えて本当に良かった」と声をかけてくれました。その瞬間、ティアさんは「自分は一人じゃない」「コミュニティがある」と感じ、ロータリーは必要なときにそっと支えてくれる存在であることを実感したとのことでした。この体験こそ「インパクトを生み出す行動」の一例です。

2つ目は、ナイジェリアでの健康支援プロジェクトです。ロータリーの補助金により、母親が定期的に検診を受けられるシステムが整備され、乳児死亡率や妊産婦死亡率が大幅に低下しました。このプロジェクトは、今後数十年にわたり多くの命を救い続ける、まさに「持続可能なインパクト」と言える取り組みです。

また、セミナーでは「ロータリー・モーメント」という概念も紹介されました。これは、活動の中で感動したり、ロータリーの素晴らしさを実感する特別な瞬間のことです。私自身も参加を通じて、そうした瞬間を感じることができました。そのほか、マイロータリーへの参加や情報発信の重要性、青少年向け行事におけるハラスメント防止の方針についても学びました。特に衝撃的だったのは、「18歳未満が参加する行事では、飲酒した状態で接触しないこと」「触らない、喋らない、2人きりにならない、先に飲まれない」という具体的なルールです。相手の立場を考え、誠実に友情を築く大切さを改めて感じました。長くなりましたが、セミナーの資料をしっかりと見たい方は、脇角様にお問い合わせいただければPDFを送っていただけます。以上、ラーニングセミナーの報告でした。ありがとうございました。



## ゲストスピーチ

皆さんこんにちは。愛知友愛ロータリークラブで幹事と会長エレクトをさせていただいている小田です。今日はよろしくお願ひします。まさかの無茶ぶりです(笑)、少しだけお話をさせていただきます。僕は入会してまだ3年ほどです。そんな中で、まさかの幹事を2年連続でやっています。実際やってみると分かると思うんですが、幹事って本当に大変です。なので、ぜひ皆さんも会長・幹事をしっかり支えてあげてください。会員は17名です。実際に活動しているメンバーは7~8名ほどで、決して多いとは言えない状況です。それでも奉仕活動はかなり力を入れています。名古屋の「フレイエ」という名古屋市が管轄している施設があるんですが、コロナ禍のときにご縁ができました。そこから関係が続き、今はその場所で植栽活動を行っています。名城大学の学生さん(女子駅伝で有名ですよ)や名古屋市の方々と一緒に活動しています。

## 【愛知友愛RC 幹事 小田 純也様】



今日皆さんの雰囲気を見ていて、世代も幅広くて、すごくアットホームでいいクラブだなと感じました。うちも30代から最高齢80代まで幅広いです。僕がロータリーに入って良かったなと思うのは、普段なら「先生」と呼ばれるような方とも、こうして肩書きを外してフラットに話せるところです。これが本当に魅力だと思っています。海外でも、すぐに仲間になれるのがすごいところですね。本日はありがとうございました。よろしくお祈りします。

句会だより

2月19日「やいと」



**溝畑正信**

帰国せし我を待つかの梅の花  
キャンパスに憩ふる学生枝垂れ梅

**溝畑洋子**

母在らば電話来さうな梅便り  
経堂へひびきはじめし春の瀧

**道木憲子**

針供養器用な母の針ばかり  
大寒や水かぶること十年目

**小林友美子**

手を繋ぐ言い訳になる春の雪  
歳時記の中にあふれる春うらら

**青戸佳世**

鱈鍋や夜明けの部屋にまだ匂う  
春隣日が射す道を遠回り



卓 話

**【道木 良明】**

私は、自分の人生についてお話しできることは、それほどないのですが、そもそも自分自身が公務員になるという心構えは、当初は全くありませんでした。大学の友人たちの多くが公務員になっていく中で、「公務員として社会に関わっていく」という感覚は周囲にはありましたが、私は特別強い志望を持っていたわけではありませんでした。それでもご縁があり、結果的に定年まで勤めさせていただくことになりました。

最初に配属された仕事は、身体障害者の方々に関わる業務でした。それまで私は身体障害者の制度についてほとんど知識がありませんでしたが、身体障害には1級から6級までの等級があり、

医師の診断を経て身体障害者手帳が交付されます。また、知的障害のある方についても、専門の医師の診断に基づき、同様に等級が認定されます。私はそのような手続きに関わる業務を担当しておりました。

社会的には目立たない立場に置かれがちな方々ではありますが、そうした方々と直接お会いし、関わらせていただいたことは、私にとって非常に貴重な経験でした。自分自身、特別に苦勞の多い人生を歩んできたわけではありませんが、そのような方々と出会い、多くのことを学ばせていただいたことは、大変ありがたいことだったと感じております。

また、公務員の仕事は型にはまったものというイメージを持たれがちですが実際には様々な経験をさせていただきました。例えば、市民祭を開催する際、それまでは市役所職員だけで資金を集めていましたが、それでは十分ではないと考え、民間企業にも協力をお願いしました。。多分、私の父親がライオンズクラブにおりましたので、そういうことでいろんな企業との関連もありまして、家族会に参加させていただいていうようなこともありました。当時の山陽電機や象印といった企業を訪問し、ご支援をいただくことができました。公務員として民間企業とこのような形で関わる機会は多くありませんでしたが、大変貴重な経験となりました。

また、コミュニティバスの立ち上げにも関わりました。交通の不便な地域と駅を結ぶため、近鉄バスと協議を重ね、路線の設定や停留所の位置などを検討しました。実際に地域を歩きながら、どこが不便であるかを確認し、住民の利便性向上に努めました。バスの車体の色についても検討し、目立ちやすく親しみやすいようにピンク色を採用しました。このように、自分なりに考えながら仕事に取り組む機会を与えていただいたことは、非常にありがたいことでした。振り返ってみますと、公務員という仕事を通じて、障害のある方々や地域の方々など、さまざまな立場の方と関わることができ、多くのことを学ばせていただきました。役所の仕事は決まりきったものと思われるがちですが、実際には人と人との関わりの中で、多くの学びと経験を得ることができました。

それからですね、役所に勤めていると、一人一台パソコンが与えられるようになりました。今では当たり前ですが、当時はちょうどパソコンが本格的に導入され始めた頃でした。仕事もそのパソコンの画面を見ながら進めるようになりまして、時代が変わってきたなあと感じておりました。その頃、私は個人的に株を少しやっておりました。といっても、大したものではなく、小遣い稼ぎ程度の気持ちで、余裕のある範囲で売買をしていたという程度です。

もちろん、役所のパソコンを使って株の売買をするというようなことは、してはいけないことですし、実際に売買をしたことはありません。ただ、株価の動きがどうなっているのか、そういう情報の画面を見ることはありました。ところが、それがきっかけで、そういうことをしているという話が周囲に伝わってしましまして、結果的に新聞で、「役所の職員が株に関わっている」というような記事が掲載されたことがありました。幸い、私の名前が出たわけではありませんでしたが、役所の上司に呼ばれて、「どういことなんだ」と事情を説明することになりました。

私は、株の売買はあくまで個人として、職場とは全く関係のないところで行っていたものであり、職場のパソコンで売買をした事実は一切ありませんでしたので、その点をきちんと説明いたしました。

正直、その時は驚きましたし、少しショックでもありました。しかし、自分としてやましいことをしたわけではありませんでしたので、きちんと説明をし、その後も変わらず仕事を続けさせていただきました。

今振り返りますと、公務員という立場は、やはり社会から信頼される立場であるということ、改めて強く感じた出来事でした。同時に、自分の行動には常に責任が伴うのだということも、身をもって学んだ経験だったと思っております。給料をいただきながら、このように多くの経験をさせていただいたことに対し、心から感謝しております。

特に、障害のある方々やそのご家族と関わる中で、社会の現実や人の強さを学ばせていただいたことは、私にとってかけがえのない財産です。以上、まとまりのない話で恐縮ですが、私の公務員人生を振り返っての感想とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

